

1 9 9 6

授業概要

【シラバス】

専攻科

〈保育専攻・福祉専攻〉

SHIRAZUME GAKUEN COLLEGE

白梅学園短期大学

目次（専攻科）

専攻科保育専攻

人間論	3
現代保育論	4
保育計画論	5・6
保育環境論	7
保育人間関係論	8
保育研究法	9
保育問題特講	10
あそび分析法	11
集団保育論	12
小児医学	13
神経生理学	14
生活習慣習得論	15
乳児保育論Ⅰ(母子関係)	16
乳児保育論Ⅱ(探索活動)	17
乳児保育論Ⅲ(信号・言葉)	18
乳児保育論Ⅳ(表象・想像)	19
幼児の保育構造論	20
保育内容研究Ⅰ(自然認識)	21
保育内容研究Ⅱ(社会認識)	22
保育内容研究Ⅲ(表現①)	23
保育内容研究Ⅳ(表現②)	24
保育内容研究Ⅴ(表現③)	25
保育内容研究Ⅵ(表現④)	26
保育内容研究Ⅶ(総合活動)	27
総合保育論	28
精神薄弱治療論	29
運動療育論	30
言語療法論	31
自閉症治療論	32
情緒障害治療論	33
専攻科実習	34
社会福祉制度政策論	35
障害福祉論	36
家族福祉論	37
社会福祉調査法	38
社会福祉援助方法論	39
社会福祉特別演習	40
社会福祉実習	41
修了研究演習	42

専攻科福祉専攻

人間論	45
老人福祉論	46
リハビリテーション論	47
老人・障害者の心理	48
家政学概論・実習	49~52
介護概論	53
介護技術	54
障害形態別介護技術(老人)	55
障害形態別介護技術(聴覚障害)	56
障害形態別介護技術 (肢体不自由・内部障害)	57
障害形態別介護技術(視覚障害)	58
実習指導	59
介護実習	60
介護福祉特講(キャリア・ソサエティ)	61
介護福祉特講(老年医学)	62
社会福祉制度政策論	63
障害福祉論	64

家族福祉論	65
社会福祉調査法	66
社会福祉援助方法論	67
社会福祉特別演習	68
社会福祉実習	69
修了研究演習	70

保 育 專 攻

【授業科目名】 人間論	【担当者】 田中 未来
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】 保育専攻・福祉専攻の学生にとって基礎となる人間観を、自ら構築するための手掛かりとなるように、人間の特性・基本的人権などを説き、教育や福祉によってどのように人間の自己実現を援助し、また基本的人権の保障をはかるかなどについて講義する。あわせて、感性の面から人間を理解するため、文学作品などをテーマとして討議する。</p>	
<p>【テキスト・参考書】 <参考書>『教育と福祉のための人間論』田中未来著（川島書店） ほかに討議の資料として『兎の眼』灰谷健次郎著 『ファウスト』ゲーテ著などを使う。 、基本的にはプリントを用意する。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1) 人間とは（講義およびディスカッション） 2) 人間の主体性・独自性・一回性 3) 人間の自由（本質的な自由・社会的な自由） 4) 人間の幸福 5) 人権（自由権と社会権） 6) 人間の自己実現・ 7) 人間のかかわり 自己と他者 8) 人間らしさ、 9) 教育とヒューマニズム 10) 福祉とヒューマニズム 11) 現代の人間とヒューマニズム （以上の内容を順不同に、教材や実習体験と合わせて講義し、またディスカッションを組み入れる）。 	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">レポート</p>	

【授業科目名】 現代保育論	【担当者】 石井 哲夫ほか
【開講期】 後期	
【授業目標】 今日おかれている保育所保育のあり方を、制度、保育内容、保育の専門性、地域・社会の動きから多角的に検討する。	
【テキスト・参考書】 講義の中で、その都度指示する。	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所には、いま、どのような役割・機能（はたらき）が求められているか 2. 保育所が児童福祉施設として位置づく今日的意味は何か 3. 保育所保育指針は、今日の保育を考えると、何を教えているか 4. 保育所保育が、いま求められている専門性とは何か 5. 地域社会のなかで保育所が果たすべき課題は何か 6. 保育所以外のインフォーマルな保育施設、あるいは幼稚園と、どう連携をはかるか 	
【評価方法】 レポートによる	

【授業科目名】 保育計画論	【担当者】 米山 千恵
【開講期】 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもひとりひとりの成長・発達の特徴をふまえ、集団保育の場での日々の生活やあそびを中心に、人間として生きる喜びを育む保育計画について考える。</p>	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<p>保育園における保育計画・指導計画を「保育所保育指針」に基づき学ぶと共に、実際にはどのように計画を立て保育を進めていくかを、幼稚園では幼児の計画をとりあげることになるので保育園の場合は3歳未満児の乳児を中心に考える。ひとりひとりの子どもを大切にする保育を進めるための保育のありよう、計画を具体的な計画の事例、スライド等を使って授業を進めたい。</p>	
【評価方法】	

【授業科目名】 保育計画論	【担当者】 渡辺明
【開講期】 後期	
【授業目標】 幼な子が、人間として生きる喜びを知る 保育計画を考える	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<p>「幼稚園は、幼児を保育し、適当な環境を与えて、その心身の発達を助長する」を目的とし、「環境を通して」を教育の基本に据え、重視すべき事項として、「幼児期にふさわしい生活の展開」(主体的な生活) 「遊びを通しての総合的な指導」 「一人一人の発達特性に応じる指導」を示している。そこで具体的な事例やスライドなどを用いて人間として育つための保育計画について考えてみたい。</p>	
【評価方法】 レポート	

【授業科目名】 保育環境論	【担当者】 民秋 言
【開講期】 後期	
<p data-bbox="95 315 247 349">【授業目標】</p> <p data-bbox="142 383 1303 416">子ども、保育をとりまくもの=環境が、子どもの生活・育ちにどうかかわるかを考える。</p>	
<p data-bbox="95 535 366 568">【テキスト・参考書】</p> <p data-bbox="155 604 890 638">民秋 言・相馬和子共編『子どもと年中行事』相川書房</p>	
<p data-bbox="581 712 876 745">授 業 計 画</p>	
<p data-bbox="116 824 1345 898">保育環境はいろいろな角度から捉えられるが、本講では「子どもと年中行事」をテーマとする。</p> <ol data-bbox="116 936 558 1043" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="116 936 558 969">1. 生活における年中行事の意味 <li data-bbox="116 1008 558 1041">2. 保育における年中行事の意味 <p data-bbox="116 1077 1345 1187">の2つをまず考えることからはじめその後、各年中行事を保育にとり組むときの留意点などを検討する。</p> <p data-bbox="142 1225 1154 1258">また、保育カリキュラムに年中行事をプログラムとして編成する演習も行う。</p>	
<p data-bbox="100 1924 252 1957">【評価方法】</p> <p data-bbox="299 1964 471 1998">レポート提出</p>	

【授業科目名】 保育人間関係論	【担当者】 藤野敬子
【開講期】 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもの両親や地域の人々、保育者仲間と共に育つていけるような保育者を目指し、どんな保育を展開し、どんなおりに相関に気づくのか、相互理解を深めていくための具体的な事例を通じて学ぶ。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキストは使用しない。</p> <p>参考書 実践59 特集 幼少とカウンセリング"マインド" (ミネルヴァ書房)ほか</p>	
授 業 計 画	
<p>幼い子どもは、身近な大人同士の人間関係に大きく影響される。保育者を目指す学生が不安に思っていることも両親や保育者仲間との人間関係である。しかも現在は、これ以上には保育者相互の協力が求められ、家庭や地域とも密接に結びついた保育が望まれている。</p> <p>相手を肯定的に見出し、信頼関係を築き、同時に自己理解を深めていけるような保育のあり方を学び、"カウンセリング"マインド"につなぐ学生になる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 多様な考え方も含む保育者仲間と相互に学びあう創り出し保育 2. 子どもの思いと向きをいっしょに見出し、その気づきを仲間に両親と共にあたりに見守り育つていく保育 3. 両親や地域の人々から学びながら、共に育ちあっていく保育 4. 相手と等重に見出し、相手の自己と向きあう直つていくのを助ける相関の力かた。 5. クラス討議などを通じて、深める友人との相互理解と自己の再発見 	
<p>【評価方法】</p> <p>レポートと平常のミニレポート・討議。</p>	

【授業科目名】 保育研究法	【担当者】 黒田 瑛
【開講期】 前期	
【授業目標】 一人ひとりが異なり、そして育つ子どもたちに責任をもつ保育者は、自ら保育に学び、その実践の中で育つことが期待される。日々の保育に課題意識をもって臨み、保育の理論と実践の中にテーマを求めて研究的に生き、働くものとなってほしいと願う。在学中に、また保育の場に立って、自ら研究の主題を選び、研究を実施し、これをまとめていく力を育てることを目標とする。	
【テキスト・参考書】 テキスト：特に定めない。 参考書：田中未来編著「保育研究の視点と方法」川島書店 民秋 言編著「幼稚園・保育所での研究の進め方と実例」萌文書林	
授 業 計 画	
<p>学生の関心や実例に即して以下の事項について話す。演習形式なので授業への学生の参加を歓迎する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育研究の意義 ーその特性と課題ー 2. 保育研究の計画・手順と方法 <ul style="list-style-type: none"> テーマの選定 先行研究の調査と学習 研究の準備と計画 研究方法の検討と決定 研究の方法 <ul style="list-style-type: none"> 文献研究、観察法、実験研究、 質問紙調査法、実践研究、事例研究 研究の実施 <ul style="list-style-type: none"> 資料の収集と考察 結果のまとめ <ul style="list-style-type: none"> レポート、論文の作成 3. 研究のねらいと統計的処理 	
【評価方法】 ① レポート ② 授業中での小テスト ③ 授業への参加	

【授業科目名】 保育問題特講	【担当者】 鈴木 佐喜子
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>様変わりしていく現代社会の影響を受けて複雑に変容している子ども・家庭・地域・文化・保育制度など、保育に関する様々な問題を取り上げ、現状・実態と保育課題を深く掘り下げることを目標としている。</p>	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<p>現代の子育てと保育</p> <p>今年度は、保育の根底にある現代の子育ての実態、親の育児意識を中心に取り上げ、理解を深めるとともに、保育の課題、親の保育者の関係を探ることとする。</p> <p>①現代の育児文化 ②子育ての実態、育児意識・育児不安 ③早期教育の現状と課題 ④親と保育者の関係</p> <p>などを内容とする予定である。</p>	
【評価方法】	

【授業科目名】 あそび分析法	【担当者】 佐々 加代子
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>幼稚園に通う子どもたちの、幼稚園での自主的に取り組む活動における、その内容の構造について検討する目を養成することを目的とする。同年齢期における子どもたちの遊びについても検討する</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>随時提示する。</p> <p>1994年度、佐々ゼミナールの白梅祭での活動のまとめなどを資料とする。</p>	
授 業 計 画	
<p>諸研究者からの見方に学んだうえで、具体的な活動を読む、ことから分析へと繋げていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもたちの活動を“読む”ということ。 2. 活動の範囲、のとらえかた。 3. 総合的な営みとしての活動と、連続ということ。部分と全体、切れめと節目。 4. 表現系としての、活動。具体と抽象。虚と実。 5. 創造された“活動”生活と遊び。その構造を探る。心像を探る。 <p style="text-align: center;">平常点、課題、レポートで行う。</p> <p>実際編として、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園での活動の観察を記録とする。VTRから、またはその場での、観察の後で、記録として採録する。 2. 採録された記録をもとに、1) 自分で検討する、2) 相互に検討する。 3. 記録が使えるものなのかどうかということの検討。 4. 採録上の留意事項。 5. VTRから再度の記録。 6. 5をもとに、その構造をさぐる。 7. 構造の特徴についてまとめたうえで、幼児における、活動の意味を探る 	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点、課題、レポートで行う</p>	

【授業科目名】	集団保育論	【担当者】	民秋 言
【開講期】	前 期		
【授業目標】	<p>保育は子ども一人ひとりの育ちをはかるものであるが、そのとき、集団のなかで生活してこそ意味がある、という面を学ぶ。</p>		
【テキスト・参考書】	<p>授業中に適宜指示する。</p>		
<p>授 業 計 画</p>			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 集団とは何か — われわれ人間にとって集団がもつ意味を考える。 2. 保育における「集団」 — 保育生活で、子どもたちはどうして集団生活を送るのか。保育者はどうして「集団づくり」を課題とするかを考える。 3. 子どもの育ちを考える「集団づくり」 — 子どもが一人ひとり健やかに育つための集団づくりのポイントと留意点について学ぶ。 4. 集団づくり、集団活動のカリキュラム — 集団づくり、集団活動を保育カリキュラムに編成する（受講生各自のカリキュラム作成の演習）。 			
【評価方法】	レポート提出		

【授業科目名】 小児医学	【担当者】 山登 淳伍
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】 小児保健については、既に本校の1年次、2年次の授業にて学んだ。専攻科の課程においては、多少の重複は免れがたいが乳幼児の身体的発育と精神発達に重点を置き解説したい。さらに、集団保育の場で遭遇する乳幼児の伝染性疾患についての理解を深め、実際に伝染性疾患が、発生した時、現場での正しい対応等を具体的に指導したい。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>今村栄一ほか編著 「小児保健」 診断と治療社 (テキスト) 小林登ほか監修 「赤ちゃん百科」 主婦の友社 (参考書)</p>	
授 業 計 画	
<p>①小児保健の概念 ②小児の身体的発育 ③小児、特に乳幼児の精神発達 ④母乳栄養、人工栄養、離乳、幼児の食事 ⑤育児としつけ ⑥小児、特に乳幼児の事故と安全 ⑦小児疾患の特徴と処置 ⑧新生児の特徴、養護 ⑨思春期の問題点 ⑩小児期に多い各種疾患</p> <p>およそ以上のような内容で授業をすすめる予定であるが、時間が許せば小児の保健行政にも触れてみたい。</p> <p>なお、学生の理解の程度を知るために、授業の合間にワンポイント・クエスチョン（定期試験の成績には関係なし）を行なう予定。</p>	
<p>【評価方法】 定期試験は筆記試験とする。 問1～問6・・・五者択一（1問につき10点） 問7・・・設問に対する小論文（40点）</p>	

【授業科目名】 神経生理学	【担当者】 工藤行夫
【開講期】 前期	
【授業目標】 人間の行動にとって、脳はどのような役割を果たしているのか。こころと脳とはどのような関係にあるのか。神経系、特に中枢神経系（脳）の基礎的な構造、機能を理解したうえで、精神医学的な知見も加え、脳の働きを共に考える時間としたい。	
【テキスト・参考書】 テキスト：養老孟司『唯脳論』（青土社）	
授 業 計 画	
<p>まず脳の構造と機能を理解するために、「脳死」の問題を解説する。続いて上記テキストを読みながら、各自が意見を述べあう形で授業を進める予定である。ちなみに、上記テキストは以下の内容からなっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 唯脳論とはなにか 心身論と唯脳論 「もの」としての脳 計算機という脳の進化 位置を知る 脳は脳のことしか知らない デカルト・意識・睡眠 意識の役割 言語の発生 言語の周辺 時間 運動と目的論 脳と身体 エピローグ 	
【評価方法】 レポートによる評価	

【授業科目名】 生活習慣習得論	【担当者】 伊志嶺美津子
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>生活習慣とはなにか、子どもが単に機能や技能として習得していくものとしてではなく、それが子どもの人格や発達全体とどのようにかかわるのか、といった観点から捉え、実際の子どもの観察を通して考え、理解を深めていくことを目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>近藤弘 伊志嶺美津子他 『保育学要説』 建帛社 檀田紋子 清水玲子他 『乳児の保育臨床学』 東京教科書出版 ほか</p>	
授 業 計 画	
<p>以下に沿って講を進める。VTRや観察結果なども交えて、子どもの実際の姿・変化を捉えながら、生活習慣習得のみちすじを理解し、保育上の配慮、起こりやすい問題についても考えたい。</p> <p>テーマの順は、進行の都合により多少変わる可能性がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活習慣とはなにか、生活習慣の発達の意義 2. 子どもの生活と生活習慣、子どもの観察計画 3. 睡眠習慣の発達、起こりやすい問題、保育上の配慮 4. 食事習慣の発達、起こりやすい問題、保育上の配慮 5. 排泄習慣の発達、起こりやすい問題、保育上の配慮 6. 子どもの観察記録 中間報告・検討 7. 清潔にかんする習慣の発達、保育上の配慮 8. 着脱衣の習慣の発達、保育上の配慮 9. 観察結果報告・考察 10. まとめ 	
<p>【評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの観察記録を含めたレポート 2. 平常点 	

【授業科目名】 乳児保育論Ⅰ(母子関係)	【担当者】 今泉岳雄
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>保育者は子どもとの関係を考える時に、背景にその子の母子関係を中心とした親子関係を見逃すことができないであろう。また、親との連携以外に保育者自身の持つ母性的なものを内省することも子供達を育むうえで重要である。多くの事例やディスカッションを交えて、母子関係を考えていく授業をしたい。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>マーシャルH.クラウス「母と子のきずな」(医学書院)、小島謙四郎「乳児期の母子関係」(医学書院)他</p>	
<p style="text-align: center;">授 業 計 画</p> <p>(1) オリエンテーション、自己紹介(この授業で何を学びたいか?)</p> <p>(2) 母子を取り囲む現代の育児環境</p> <p>(3) 母子関係の成立過程(感受期、エンタレイメント、アタッチメント)</p> <p>(4) 母性とは(妊娠から出産に至る育児行動や初期の母子分離から考える)</p> <p>(5) 母性的行動を阻む要因</p> <p>(6) 乳幼児の発達と親子関係</p> <p>(7) 危機的な状況で乳幼児の示すサインや問題行動</p> <p>(8) 探索行動、アタッチメント行動、スージング行動、新奇場面の4因子から子どもの行動を理解する</p> <p>(9) 子どもにとって父親存在の意味</p> <p>(10) 思春期、成人の問題から振り返った親子関係</p> <p>(11) 精神分析、交流分析の理論から幼児期体験を理解する</p> <p>(12) エゴグラムから自分について語り合う</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート、平常点</p>	

【授業科目名】 乳児保育Ⅱ（探索活動）	【担当者】 鈴木 佐喜子
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>探索活動が活発になる乳児期後期の子どもの発達を、人との関係、物との関係から考察し、この時期の子どものとらえ方と保育への理解を深める。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>参考文献 授業時に紹介する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>およそ以下の項目を取り上げる予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児後期の子どもの発達の特徴 2. 子どもの探索活動と保育 <ol style="list-style-type: none"> (1)探索活動のおもしろさ (2)探索活動の発展のプロセス (3)探索活動を通して育つもの (4)探索活動を発展させる大人の役割 	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">レポート</p>	

【授業科目名】	乳児保育論Ⅲ(信号・言葉)	【担当者】	佐々加代子
【開講期】	前期		
【授業目標】	乳幼児とのかかわりにおいて発達助成者として位置づく保育者に、両者のかかわりにおいて、目指される、活動の展開または阻害について要因を探ること、みる目の養成、及び技法の検討と、その習熟に置く。		
【テキスト・参考書】	発達助成論(私製)、その他随時提供する。		
授 業 計 画			
<p>演習をふまえて論を展開する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児の発達過程における、信号行動系、states 2. 母子関係に代表される、人間関係にみられる、信号行動系が、相互関係において、はたす機能 3. 関係把握において鍵となる、距離—信号行動系と要素。 4. 相互関係のしくみ; コミュニケーションとそのプロセス 5. 意識化してとらえること。相手と私、私の信号行動系、相手の信号行動系。 6. とらえる私の視知覚能力、範囲。聴知覚能力、触知覚能力。(演習) 7. 観察力の自己点検・評価。他者に学ぶ、観察の視点 8. 相互関係における、距離—信号行動系(演習) 9. 一人から数名、集団の関係の把握。(演習) 10. 日常生活、保育所、幼稚園などの保育現場でのさまざまな場面のコミュニケーション過程とその展開のさまについての検討。問題点についての見方 11. 発達助成者に求められる内容—かかわりかたの技法 12. さまざまな子ども(たち)とのかかわりにおいて求められる内容 13. 受講生自身のかかわりかたの傾向の分析(特質と問題点) 14. 瞬時の関係把握に求められる資質。問題解決への援助 <p>対象乳幼児は障害児もふくめて検討する。</p>			
【評価方法】	出席点、平常点、ミニ課題、レポートによって行う。		

【授業科目名】 乳児保育論Ⅳ(表象・想像)	【担当者】 西本絹子
【開講期】 後期	
【授業目標】 乳児から幼児前期にかけての象徴能力・表象能力の発達を捉えながら、この時期の子どもの姿やその遊びを見る力・理解する力を養うことを目標とする。	
【テキスト・参考書】 心理科学研究会編「僕たちだって遊びたい」(マエウラ書房)	
授 業 計 画	
<p>授業計画</p> <p>初期言語発達と絡む象徴能力・表象能力の発達についての諸理論を紹介し、基本的な知識を得てもらうこと。乳幼児の遊びについて各自の経験をふりかえり自分の頭で考えてもらいながら、遊びについての見方や理解を深め、子どもとの関わりかたへの示唆を得ていくこと。この二点に沿って授業を進める。およそ以下の項目について講義を行う。</p> <p>A、＜理論を学ぶ＞</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、表象・象徴機能・想像力とは何か 2、初期言語発達と象徴遊びの発生 3、象徴遊びの発達 4、表象機能の発達 <p>B、＜遊びから考える・遊びを考える＞</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、みたて・つもり・ごっこ 2、描画 3、絵本を楽しむ 4、その他 <p>Bを軸として進めいく予定である。</p>	
【評価方法】 レポート (短いものを随時、 ^{3回} 最終的に総合レポートとして提出されたものをまとめて評価する)	

【授業科目名】 幼児の保育構造論	【担当者】 岡本富郎
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>保育の在るべき姿を保育の構造という視点で追求する。 自分なりに考えて、保育の在り方を主体的に探究することを授業の目標とする。</p>	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育学と保育学。 2. 保育の現状。 3. 幼児期の人生における位置。 4. 子ども存在について。(子どもをどういう存在としてみるか) 5. 保育とは何か。 6. 保育構造とは何か。(構造とは何か) 7. 保育構造の探究。①(保育構造論の分析) 8. 保育構造の探究。②(保育構造論の分析) 9. 保育構造の探究。③(保育構造論の分析) 10. 保育構造論と保育者。 11. まとめ。 	
【評価方法】	

【授業科目名】 保育内容研究 I (自然認識)

【担当者】 近藤正樹

【開講期】 後期

【授業目標】

幼児教育法の各論としての“認識”学がまとまっていないので、哲学・生理学・心理学・教育学を通じた学際教科とし、私流に表現すれば『input教育法の概論、自然現象の認識を育てるために』に相当する。本科の『環境 I (自然認識)』が具体的体験を中心に講じているのに対し、抽象度を高めるとともに境界領域として見通しをもてるように配慮している

【テキスト・参考書】

テキスト：中沢和子著『新版 幼児の科学教育』 国土社刊
参考書：梅棹忠夫著『知的生産の技術』岩波新書、岩波書店刊
時実利彦著『目で見る脳』

授 業 計 画

幼児教育法各論をどう考えるか

1. 正しい認識を豊かに身につける教育法 (input の教育)
2. 自分自身の知的財産を豊かに効果的に表現できるようにする教育法 (output の教育)
3. 望ましい生活習慣を身につけ、おとなの社会に適応させる教育法 (adaptation の教育)
4. 自然認識・社会認識・文化認識というサブジャンルの特質

“認識”とは何か

1. 教育学における Terminology (専門用語と生活用語)
2. 用語の正しい理解のしかた (外国語と比較のすすめ)

“認識”を理解するための生理学 ① 神経細胞

1. 環境のリセプター
2. 感覚器の構造と機能
3. 神経細胞の構造と機能

“認識”を理解するための生理学 ② 神経系と脳

4. 神経系と神経節・脳の関係
5. 脳の構造と機能の分化
6. 生理学的原因による認識不全の現象

“認識”を理解するための心理学

1. レンズ眼による倒立像を正立像とみなす適応
2. 残像と編集
3. 錯覚と先入観
4. イメージと記憶のファイニング
5. 夢とファールと発想
6. “認識”のモデルとコンピューター

“思考”を考えるモデル

1. 中沢和子著『幼児の科学教育』の分析
2. 中沢和子氏の“思考”プロセスのモデル
3. “思考”モデルとコンピューターのアナロジー
4. コンピューター理論の現状と未来
5. “認識”と“思考”の教育学的総括
6. “知・情・意”の認識学的説明

【評価方法】

試験 (題は公表しておく) を行う。

【授業科目名】 保育内容研究Ⅱ（社会認識）	【担当者】 民秋 言
【開講期】 後 期	
<p>【授業目標】</p> <p>保育において子どもが「社会事象」を認識することの意味を考える。 さらに保育カリキュラムとして社会事象の認識を組み込む作業をする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>とくに使用しない。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもが「社会事象」を「認識する」とはどういうことか。 2. 保育所保育指針における社会事象の認識。 3. 幼稚園教育要領における社会事象の認識。 4. 保育において子どもが認識すべき社会事象とは何か。 5. カリキュラムに社会事象の認識をどう組み込むか。 6. 受講生がそれぞれ社会事象の認識のカリキュラムを組み立てる。 	
<p>【評価方法】</p> <p>レポートにより採点</p>	

【授業科目名】 保育内容研究Ⅲ（表現①）	【担当者】 志 摩 弘
【開講期】 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>「内容」をつたえるのに、いろいろな「表現手段・方法」がある。</p> <p>この時間では、「素話」での表現（音声と身振り、表情のみ）と、「もの」とたとえば「人形劇」「紙芝居」を使った場合の表現を、実際に演じてみて、いろいろな表現を考える。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキストは使用しない。</p>	
授 業 計 画	
<ul style="list-style-type: none"> ・はじめに、「素話」「人形劇」「紙芝居」等の表現特徴について講義をする。 ・「ことば」を考える。（標準語について。日本語のアクセントについて。イントネーションについて。他） ・「素話」を演じてみる。 ・「紙芝居」を演じてみる。 ・時間があれば「人形劇」を演じてみる。 <p style="text-align: center;">※限られた時間（前半6講時で終わる）を有効に使い、実技を中心に授業をすすめる。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常授業での「実技」を中心に評価する。</p>	

【授業科目名】 保育内容研究Ⅳ（表現②）	【担当者】 花原 幹夫
【開講期】 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもの造形表現活動の援助指導について、演習を中心に具体的に学ぶ。 豊かな造形表現活動を実現するための環境づくりと指導援助のあり方について考察する。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>特に使用しない</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの造形表現活動を豊かにしていくための環境づくりについて 2. 子どもの造形表現活動を保育者として、どう受けとめ、どう働きかけるか、について 3. 以上の視点について、実際の保育現場での実践例を検討素材にして援助指導のあり方について分析考察していく。 （保育現場からのVTR、作品などの具体的な実践資料を活用していく） 	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点</p>	

【授業科目名】 保育内容研究Ⅴ（表現③）	【担当者】 小林 美実
【開講期】 後期	
【授業目標】 子どもは、生得的に音楽的なものに対する嗜好を表し、感情等を音楽的に表現する。そうした生得的な表現活動を、音楽としての要素、構造をもった自己表現へと成長し発達する様子、それを保育者として援助するために必要な知識、方法等を学ぶ。	
【テキスト・参考書】 テキスト 特に使用しない。 参考書 東京書籍「音楽リズム」 建邦社「表現」	
授 業 計 画	
<p>1・子ども（人間）と音楽表現 生活と音楽のかかわり。音楽の誕生、音楽とコミュニケーション、など。</p> <p>2・子どもの成長と音楽的発達の姿。 M子の成長の記録から、その姿をみる。</p> <p>3・子どもの音楽的発達を助けるもの。 環境の問題等。</p> <p>4・世界の音楽教育から学ぶ。 民族、或いは国家の教育に対する考え、施策。 日本の教育と音楽教育。</p> <p>5・実技 あそびうた （楽譜等は授業中配布する。）</p>	
【評価方法】 レポート提出	

【授業科目名】 保育内容研究Ⅵ(表現④)	【担当者】 若松美恵子
【開講期】 後期	
【授業目標】 乳幼児の身体運動を中心とした表現の発達および幼児の身体表現力の発達をふまえて、保育者は、子どもとの関わりの中で、子どもたちが、①感受性が豊かになる、②豊かに表現する、③表現を楽しむにはどのような援助、働きかけをすべきか、その指導方法について学ぶ。特に言葉がけについて演習形式で詳しく学ぶ。	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<p>(1) 総論</p> <ul style="list-style-type: none"> ①身体表現やリズムカルに身体を動かす等の幼児教育における現状と問題点 ②保育現場でみられる身体表現 ③身体表現の教育的意義 ④指導の実践例 <p>(2) 身体表現力の発達</p> <ul style="list-style-type: none"> ①乳幼児の発達にみられる身体表現 ②身体表現活動にみられる身体表現力の発達(3歳児、4歳児、5歳児) <p>(3) 身体表現の指導法</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ねらい ②援助の基本的姿勢 ③援助の方法 ④言葉がけ <p>(4) 身体表現の援助における言葉がけの研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ①指導実践例における言葉がけの分析と整理 ②言葉がけのありかた 	
<p>【評価方法】</p> <p>講義の一部、対話形式や演習形式で進める中、積極的な発言を期待する。これらを平常点とし、さらに最後に与えた課題について各自の考えを記述してもらう。</p>	

【授業科目名】 保育内容研究Ⅶ（総合活動）	【担当者】 八木 絃一郎
【開講期】 後期	
【授業目標】 この講座では、第1には、単一の活動から徐々に他の複数の活動やねらいへとつながりのある「総合的」な展開とその援助方法、第2には、領域別の系統的な学習・活動形態とは別の形態の幼児がクラス全体で組織的に実現させる規模の大きな活動や遊び、たとえば、劇活動、運動会、お店屋ごっこなどの遊び、お別れ会など園行事を含めた「総合活動・総合学習」を取り上げ、この活動形態ならではの独自の教育的役割と多様な指導展開の仕方、援助法を実践的に理解することが目的。	
【テキスト・参考書】 野田弘「総合学習の構想と実践」（明治図書） 久保田浩「幼児教育の計画」（誠文堂新光社）	
授 業 計 画	
<p>第1に、保育内容は、主に、領域別の系統的な学習活動として計画、配列されている領域活動（学校でいえば教科目別学習活動）カリキュラムと、そのほかに意図的に複数の教科目や領域のねらいを相互作用させながら学習する形態の活動がカリキュラムにあるということを理解すること。教育方法におけるカリキュラムの構造的な構想をしていくための基本として歴史的にコア・カリキュラム、総合学習、合科学習、問題解決カリキュラムなどがあり、系統学習と組み合わせて行なわれることが望ましいということを理解することが必要。</p> <p>ここでは、系統学習的な形態では体験できない学習課題は何かを明確にして、保育方法として領域の系統学習的な活動では得られない活動、つまり、総合的な展開でしか得られない学習課題や保育のねらいを実現するための学習形態として、その指導方法についても学ぶことができるように、できるだけ実践的な事例に基づいて学修する。</p> <p>このことは、改訂された幼稚園教育要領の趣旨にも記載された「遊びを通した総合的な体験」の具体的な学修でもある。</p> <p>(1) 総合活動（総合学習）に関する教育史・保育史的な理解</p> <ol style="list-style-type: none"> a) カリフォルニア・プラン、ヴァージニア・プランに代表されるコア・カリキュラムの実践が果たした教育的な意図と役割 b) 日本における問題解決学習・総合学習・合科学習の実践事例から学ぶもの c) 現代における総合学習（小学校における生活科、総合学習科目の実践から） <p>(2) 「総合性」と「総合活動」</p> <p>何をどうすることが「総合性」なのか。何と何を「総合」する「活動」なのか。</p> <ol style="list-style-type: none"> a) 活動の総合性 <ol style="list-style-type: none"> イ) 何を <ol style="list-style-type: none"> ①表現活動、②認識活動、③共同・協同活動 この三つの活動のインタラクティブな学習構造の教育方法学的理解 個人の活動とは別に集团的に協同・共同しながら自己実現する活動を考察する。 ロ) 方法・手順 事例を通して、単一の活動から徐々に多様な活動へのつながり、広がり、ねらいのつながりについて理解する。 b) 表現形式における総合性 <ol style="list-style-type: none"> イ) 音楽、ロ) 造形、ハ) 身体的パフォーマンス、ニ) ことば、ホ) 舞蹈、ヘ) 劇など <p>(3) 総合活動を組み入れた保育カリキュラム</p> <p>(4) 事例を通じた考察</p>	
【評価方法】	

【授業科目名】 統合保育論	【担当者】 高橋 まゆみ
【開講期】 前後期	
<p>【授業目標】</p> <p>健常児と障害児がともに生活することの意義を理解するとともに統合保育における現状と課題を明らかにし、実践に関わる総合的な視点と子ども理解・援助の視点について実践的な追求をめざす。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>授業のなかで適宜提示する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>統合保育のあり方および現在の幼稚園・保育所における障害児の受け入れ、クラス集団のあり方など、具体的な問題を通して考える。理念としてはノーマライゼーション思想に基づいた保育観の検討、制度では実施の現状と課題の把握、実践では発達保障の問題と社会参加の視点から子ども理解と援助法について、さらに地域の療育ネットワークと保育所の役割や家族への地域支援からも学習する。</p> <p>前期は、VTR観察、実践報告や研究報告を取り入れながら、実践課題を明確にしそれに対する実践的アプローチについても具体的に検討する。</p> <p>後期には、統合保育を実践している保育所、幼稚園行われている実践を実際に（あるいはVTR）観察し、観察記録をまとめながら前期に学んだ視点にそって分析し討論を進める。できる限り直接体験を通して実践性をともなった学習としたい。</p> <p>およそ、以下の項目にそって進める。</p> <p><前期>① ノーマライゼーションの思想とインテグレーションの理解 ② 障害の理解－知的障害、自閉症、言語障害、重複障害など ③ 我が国における制度・政策の展開と現状 ④ 実践体制の要件－受け入れ、チームワーク、園内の条件整備など ⑤ 実践的課題の存在－実践報告、研究報告にみる課題 ⑥ 子どもの理解と援助1－個人的援助、発達援助のあり方 ⑦ 子どもの理解と援助2－集団的援助、健常児間関係のあり方 ⑧ 家族への支援、地域・関連施設機関との連携</p> <p><後期>① 統合保育における障害児の発達評価と発達課題の分析 －1 保育所あるいはVTR観察による ② －2 観察記録の報告と討論 ③ 統合保育における健常児と障害児の相互交渉の分析 －1 保育所あるいはVTR観察による ④ －2 観察記録の報告と討論 ⑤ 統合保育における今後の課題について</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>① 平常授業の中で実践・研究文献を報告し、適宜討論を行う。 ② 統合保育実践の観察や分析のレポートをまとめる。</p>	

【授業科目名】 精神薄弱治療論	【担当者】 山田寿子
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>精神発達遅滞児の保育・指導方法の基礎となる知識及び基本的な考え方を獲得することを目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：使用しない</p>	
授 業 計 画	
<p>現在、多数の保育機関で統合保育が行われている。障害児を健常児とともに保育することの意義や重要性は理解されつつあるが、現場の保育者のためらい・苦労は未だ大きい。また、障害児を健常児と混合して保育するだけで、障害に合った適切な保育がなされなければ保育の効果はない。本講義では、精神発達遅滞を中心に障害児及び障害のとらえ方を整理し、精神発達遅滞児の保育・指導方法について具体的に述べる。</p> <p>授業は以下の項目にそって進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> I. 「精神薄弱」の用語と概念 II. 「精神発達遅滞」の分類 III. 「精神発達遅滞」の原因 IV. 「精神発達遅滞」の特性 V. 「精神発達遅滞児」の診断 <ul style="list-style-type: none"> -1 障害を正しく理解する必要性 -2 障害の診断方法 -3 運動発達(姿勢・粗大運動) -4 対人関係・社会性・基本的習慣の発達 -5 言語理解・表出の発達 VI. 「精神発達遅滞児」の指導法 <ul style="list-style-type: none"> -1 早期指導 -2 各種指導法(行動療法／遊戯療法／インリアルセラピー／MAKATON法等) -3 食餌指導 -4 言語指導 	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート</p>	

【授業科目名】 運動療育論	【担当者】 南雲直二
【開講期】 前期	
【授業目標】 肢体不自由をもつこどもの運動発達の道筋とその援助の方法，および家族への支援の理論と実際を理解する	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<p>1. 「障害」の正しい理解 近年，障害の概念がWHOにより整理され，その理解は障害者に携わるものにとって必須のものである．この3階層モデル（Impairments, Disabilities, Handicaps）を理解する．</p> <p>2. 運動療育の実際</p> <p>1) 障害児への支援</p> <p>ア. 肢体不自由をもつこども（脳性麻痺，骨形成不全，ダウン症候群，等々）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動の仕組み ・運動障害の仕組み <p>イ. 発達の理解と支援：運動発達の評価，予後評価，および適正な運動活動形成への支援．</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種運動発達評価法 ・予後に関する研究 ・各種運動療法の理論と実際 <p>ウ. 運動能力の開発：Disabilitiesの克服</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Impairmentsへの挑戦（新しい医療） ・機能代替によるDisabilitiesの軽減・改善 ・装具・補装具によるDisabilitiesの軽減・改善（医療工学） <p>2) 家族（母親）への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育児相談および育児負担の軽減（対策） ・健康支援（母親）：精神衛生と心理支援 	
【評価方法】 試験	

【授業科目名】 言語療法論	【担当者】 高平嘉明
【開講期】 後期	
【授業目標】 人と人とのコミュニケーションが、人間の発達や生きざまに与える影響について学習しながら、その中心的な役割の「言語」に障害を持つ子供達の診断や治療等について、体験的に学んでいきたい。	
【テキスト・参考書】 保育者養成のための言語（白梅学園短期大学言語研究室） 最新版を使用予定	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「こどもの行動観察」VTRによる 2. 「しぐさ、表情、ことば」等による心理分析（VTR映画） 3. コミュニケーションを考える (1)ことば遊び (2)カウンセリング入門 (3)プレイセラピー入門 4. ことばの発達の遅れについて (1)診断のポイント (2)治療・教育 5. 発音（構音）について (1)日本語の構音と表記法 (2)構音障害 6. 吃音について 7. その他のコミュニケーション障害について 8. まとめ 	
【評価方法】 未定	

【授業科目名】 自閉症治療論	【担当者】 伊藤英夫
【開講期】 後期	
【授業目標】 <p>自閉症とは何か、自閉症児とはどんな子どもたちかを理解し、どんな治療教育が有効かを学ぶとともに、将来、自閉症児の担任になったときに、どんな保育をすればよいかについて考える。</p>	
【テキスト・参考書】 「自閉症の診断と基礎的問題」野村東助・伊藤英夫・伊藤良子 編 自閉症の診断と指導 第1巻 学苑社	
授 業 計 画	
<p>現在、自閉症児は脳を基本とする中枢神経系の障害に基づく、発達障害と考えられているが、詳しい原因はまだ確定されていない。したがって、自閉症の治療教育の方法もさまざまである。授業では、自閉症の正しい理解のもとに、最新の治療教育の方法について、ビデオを使いながら紹介する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①オリエンテーション： ②「自閉症」とは？ 自閉症の診断基準 ③早期スクリーニングシステム ④早期療育システム ⑤障害児通園施設での治療教育と幼稚園での統合保育 ⑥自閉症児の母子関係 ⑦自閉症児のコミュニケーション指導 ⑧言葉のない自閉症児の言語指導プログラム ⑨アメリカの自閉症児・者の療育プログラム ⑩自分が自閉症児の担任になったとしたら．．． 	
【評価方法】 レポート	

【授業科目名】 情緒障害治療論	【担当者】 伊藤英夫
【開講期】 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>情緒障害とは何か、情緒障害児とはどんな子どもたちかを理解し、将来、情緒障害児の担任になったときに、どんな保育をすればよいかについて考える。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>岡堂哲雄（編）『臨床心理学』（日本文化科学社）</p>	
授 業 計 画	
<p>一口に情緒障害といっても、原因、種類、症状、治療的アプローチもさまざまなものがある。授業では、情緒障害全般について概観し、特に幼児期におこりやすいものに焦点を当て、治療のプロセスについて具体的な事例を紹介しながら検討する。また、カウンセリングの方法やあり方についても触れる予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①オリエンテーション ②「情緒障害」とは？ ③乳児期の情緒障害 ④幼児期前期の情緒障害 ⑤幼児期後期の情緒障害 ⑥学童期の情緒障害 いじめ ⑦学童期の情緒障害 不登校 ⑧心理アセスメントの技法 ⑨心理カウンセリングの技法 ⑩自分が情緒障害児の担任になったとしたら... 	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート</p>	

【授業科目名】 専攻科実習	【担当者】 高橋まゆみ
【開講期】 前期 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>より豊かな保育実践をとほなにか、講義や演習で学んだ知識と技術を有機的に関連させ理論と実践の統合をはかり、実践性を身につけることを目標とする。</p>	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<p>実習は前期実習と後期実習を行う。前期実習は毎週水曜日に行い、後期実習は11月に2週間の集中実習を行う。</p> <p>実習園は、専攻するコース（乳児・幼児・障害児）、または修了研究テーマと関連させて、保育所・乳児院・幼稚園・障害児通園施設等の中から選ぶ。</p> <p>前期実習は主に、保育園における子どもの生活構造について、あるいは保育実践のカリキュラム構造について、子どものあそびの発達について、仲間関係の成立についてなど、平行して進められる講義・演習の内容と関連させて、実践を分析的にとらえる実習を行う。</p> <p>後期実習は主に、前期の実習内容をさらに進め実践を作り出すための実践評価や実践準備に取り組む。修了研究のテーマによってはより具体的な観察視点をもって実習を行うことになる。</p> <p>本科の実習と異なり、より豊かな保育実践とはなにか、あるいはそれを作り出すためにどのような視点と準備が必要かを追求する。このため、各自の重点テーマについては学生自身が設定して実習の成果をあげるよう、各自の主体性が求められる。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>① 実習テーマに即した観察・分析を実習記録にまとめ、提出する。</p> <p>② 実習のまとめとして反省会あるいはテーマ検討会を行い、実習テーマに即して各自の観察・分析を報告し合いながら検討を深める。</p>	

【授業科目名】 社会福祉制度政策論	【担当者】 佐野 英司
【開講期】 専攻科共通 前期および後期前半	
【授業目標】 本講は、社会福祉主事資格を取得する学生が履修する選択科目として位置付けられています。しかし、主事資格取得の有無に関わらず、できるだけ多くの学生に履修をお薦めします。 前期は、児童福祉、障害者福祉、老人福祉、公的扶助などを巡る諸制度、諸政策の歴史的変遷と現在、そしてこれからどう変化していこうとしているかを、住民（児童、障害者、老人その他一般住民）の生活との関連で概括します。そして、制度政策を考える視点を生存権保障に置き、憲法、社会福祉諸法、各種憲章、権利条約等をとおして自らを築き上げられるようにします。 後期は、社会福祉制度が、具体的にどうなっているかを理解できるようにし、年間を通して、保育・介護現場に立つ者としての最低限の認識を身につけることを目標にします。	
【テキスト・参考書】 授業時に提示します。	
【授業の進め方】 前期は、育児、保育、介護などを巡る実態をもとに、授業目標に掲げた内容にそって、プリントや進行途中から取り入れる教科書を中心に授業を進めます。 また、夏期休暇中の公立保育所職員採用試験やその後の保育所、老人福祉施設などの受験対策を兼ねながら、小論文（作文）作成の方法や内容についても検証します。 また、後期は、現行社会福祉制度の中身や利用方法などをグループ学習を取り入れながら認識できるようにします。 内容的には、高度な難しい授業ですが、ひとつひとつ丁寧に進めていくつもりです。また、受講学生も予習を欠かせません。	
【評価方法】 授業内容をヒントとしたレポートの提出を小論文（作文）作成訓練を含め数回求めます。定期試験は、レポートとします。出席は重視します。 その総合点で評価したいと思います。	

【授業科目名】 障害福祉論	【担当者】 尾島豊
【開講期】	後期
【授業目標】	<p>障害者問題の特質とその背景、障害の概念、障害者福祉に関わる法律や制度の概要など、専門援助者として関わる上での基本的な考え方や知識を学び、また現代の障害者問題に対する問題意識を深め、またノーマリゼーション論の理解を深めることを目的とする。</p>
【テキスト・参考書】	<p>テキスト：手塚直樹、加藤博臣編『障害者福祉論』ミネルヴァ書房 参考書： 大野智也著『障害者は、いま』岩波新書 砂原茂一著『リハビリリテーション』岩波新書</p>
授 業 計 画	
<p>前半は、障害者福祉に関する制度の概要の紹介が中心となる。身体障害者、知的障害者に対する福祉制度、関連する制度の概要を理解することが目的となる。後半は、現状の障害者問題に対する知識と考え方を深めることを目的とする。福祉の領域におけるノーマリゼーション論を、広く社会の動きとの関連の中で捉え、現代において広く問題となっている慢性疾病と障害者問題、高齢化と障害者問題、教育における障害児の統合教育などがテーマとなる。</p> <p>序 オリエンテーション</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 障害の概念について 2 障害者福祉の法律と制度 3 障害者問題を考える視点 	
【評価方法】	<p>学期末 レポート提出 講義への出席、参加状況</p>

【授業科目名】 家族福祉論	【担当者】 浅井春夫
【開講期】 後期	
【授業目標】 ①家族福祉の基本的枠組み、諸理論を学ぶ ②各分野の家族福祉の具体的課題を深める ③わが国における家族福祉の動向について学ぶ	
【テキスト・参考書】 テキスト：使用しない 参考書：授業のなかで紹介する	
授 業 計 画	
(1)家族福祉論で考えたいこと (2)「女らしさ」「男らしさ」からの解放 (3)いま世界と日本の家族に何が起きているのか (4)家族福祉の視点とは何か－家族福祉の概念 (5)高齢者問題からみた家族福祉－福祉サービスの内容 (6)障害児問題からみた家族福祉－スティグマ観の検討 (7)精神障害者問題からみた家族福祉 (8)ディベート 福祉制度改革はどうすすめられるべきか (9)ディベート 介護の担い手は女性が適しているか否か (10)地域問題からみた家族福祉 ⑫援助方法からみた家族問題 ⑬家族政策からみた家族問題 ⑭現代の社会福祉政策動向と家族福祉の展望	
【評価方法】 ①レポート提出 ②授業への出席状況	

【授業科目名】 社会福祉調査法	【担当者】 山口尚子
【開講期】 専攻科共通 後期	
【授業目標】 社会福祉調査が社会福祉援助技術の1つとして、どのような意義をもち活用されているかについて具体的に理解することを授業目標とする。	
【テキスト・参考書】 テキスト 根本博司編『社会福祉援助技術』建帛社 参考書 授業の中で適宜紹介する。	
授 業 計 画	
<p>概ね、以下の内容で行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉調査の意義 2. 社会福祉調査の過程 <ol style="list-style-type: none"> (1) 調査問題と目的の明確化 (2) 調査範囲・対象の決定 (3) 調査法の選定 (4) 調査票の作成 (5) 予備調査の実施 (6) 調査の実施 (7) 調査結果の集計と分析 (8) 報告書の作成 	
【評価方法】 授業への出席状況と主体的学習態度により評価する。	

【授業科目名】 社会福祉援助方法論	【担当者】 尾島豊
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>社会福祉に固有な方法としてのソーシャルワーク実践の専門性（価値・知識・技術）のあり方を学ぶ。職業としての社会福祉援助の意味、援助関係の形成と援助過程を展開する上で必要な基礎的な概念を理解する。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：武井・春見・深澤共著『ケースワーク・グループワーク』光生館 参考書：モフエット著『ケースワーク入門』川島書店 バーステック著『ケースワークの原則』誠信書房</p>	
授 業 計 画	
<p>この講義では、保育・介護福祉の職業に就く者として必要な社会福祉の方法論の基礎を改めて学ぶ。保育にも介護福祉にも共通する対人援助活動における基本的な考え方に関するテーマが中心となる。どのように現場で学校や書物で得た知識を活用し、社会的価値を実現させていくか、あるいは専門的な援助を通じて自らも成長できるという意味で、対人援助という職業を見直すきっかけになればと思う。</p> <p>序 オリエンテーション</p> <p>1 社会福祉における方法・技術 -対人援助活動の基礎-</p> <p>2 社会福祉の目標と価値</p> <p>3 社会福祉の専門性</p> <p>4 ソーシャルケースワークの基礎</p> <p>5 事例研究-ニーズの把握・情報収集の方法と援助過程の展開-</p> <p>6 ソーシャルワーク論の歴史と理論</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>講義の内容の理解を中心にした筆記試験</p>	

【授業科目名】 社会福祉特別演習	【担当者】 山口尚子
【開講期】 専攻科共通 前期	
【授業目標】 地域福祉を基軸とした社会福祉の再編成がなされている現状と課題を理解し、そこでのソーシャルワークの方法について、具体的に学ぶことを授業目標とする。	
【テキスト・参考書】 授業時に適宜、紹介する。	
授 業 計 画	
<p>概ね、以下の内容で授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域福祉機関におけるソーシャルワークの主体とプロセス <ol style="list-style-type: none"> (1)主体 (2)プロセス 2. コミュニティワークを中心とした援助技術の再構築 3. 地域福祉機関におけるソーシャルワークの展開 <ol style="list-style-type: none"> (1)地域福祉相談活動 (2)小地域ネットワークづくり (3)当事者家族の組織化 (4)ボランティア活動への支援 (5)在宅福祉サービスの開発と組織化 (6)地域福祉活動計画の策定と実施 4. 事例研究 	
【評価方法】 出席状況と主体的学習態度により評価する。	

【授業科目】 社会福祉実習	【担当者】 佐野 英司
【開講期】 専攻科共通 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>この実習は「社会福祉主事任用資格」取得希望者を対象に福祉事務所や児童相談所などの社会福祉専門行政機関、老人ホームや精神薄弱者援護施設などの社会福祉施設（原則として児童福祉施設を除く）で行うものとしします。実習をとおして、施設利用者の生活実態と機関・施設の役割を理解し、考える力をつくと共に、援助技術について学びます。</p>	
<p>【本実習及び事前・事後指導】</p> <p>配属実習は7月下旬から8月上旬にかけての12日間を標準として実施します。実習の事前・事後指導は、別途相談して決めます。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>実習機関からの評価を基礎に、実習への取り組み方、実習のまとめ等を総合的に判断し行います。</p>	

【授業科目名】 修了研究演習	【担当者】 専任教員
【開講期】 前期 ・ 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>保育のなかで問題とされるテーマを各自選び、その課題解明を試みる。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>各担当教員の指示による。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 4月入学後、オリエンテーションを受けた後、学生がテーマを決める。 2. テーマによって、担当教員を決定（教員1人当たり5～10名の学生が配属） 3. 担当教員の指導を受けながら研究作業をすすめる。 4. 11月に予定の修研中間発表会で報告する。 5. 1月修研提出する。 6. 2月修研発表会で、研究成果を報告する。 	
<p>【評価方法】</p> <p>各自提出の修研（論文）により評価する。</p>	

福 祉 専 攻

【授業科目名】 人間論	【担当者】 田中 未来
【開講期】 前期	
【授業目標】 保育専攻・福祉専攻の学生にとって基礎となる人間観を、自ら構築するための手掛かりとなるように、人間の特性・基本的人権などを説き、教育や福祉によってどのように人間の自己実現を援助し、また基本的人権の保障をはかるかなどについて講義する。あわせて、感性の面から人間を理解するため、文学作品などをテーマとして討議する。	
【テキスト・参考書】 <参考書>『教育と福祉のための人間論』田中未来著（川島書店） ほかに討議の資料として『兎の眼』灰谷健次郎著 『ファウスト』ゲーテ著などを使う。 、基本的にはプリントを用意する。	
授 業 計 画	
1) 人間とは（講義およびディスカッション） 2) 人間の主体性・独自性・一回性 3) 人間の自由（本質的な自由・社会的な自由） 4) 人間の幸福 5) 人権（自由権と社会権） 6) 人間の自己実現・ 7) 人間のかかわり 自己と他者 8) 人間らしさ、 9) 教育とヒューマニズム 10) 福祉とヒューマニズム 11) 現代の人間とヒューマニズム（以上の内容を順不同に、教材や実習体験と合わせて講義し、またディスカッションを組み入れる）。	
【評価方法】 レポート	

【授業科目】 老人福祉論	【担当者】 佐野 英司
【開講期】 専攻科 福祉専攻 前期	
<p>【授業目標】 全体授業目標としては、老人福祉についての基本的視点をしっかり身につけることを追求します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老人福祉の社会的背景について学びます。 2. 老人福祉の理念・目的を学びます。 3. 老人のおかれている状況及び生活実態について学びます。 4. 現行の老人福祉、老人保健サービスの体系、事業内容及び活用手続きなど、具体的実践活動について学びます。 5. 老人福祉実践について具体的事例をもとに学びます。 	
<p>【参考図書】</p> <p>「すべての人にゆたかな老いを」 (文理閣)</p> <p>「ほけてもいいとね」 (安田陸男著)</p> <p>「老いを生ききる」 (法蔵館・田邊順一著)</p> <p>「寝たきり老人のいる国、いない国」 (ぶどう社・大熊由紀子著)</p>	
<p>【授業の進め方】</p> <p>授業は、上記授業目標を具体化し、プリントを中心に進めます 老人福祉を巡る様々な施策、ゴールドプラン、老人保健福祉計画、公的介護保険構想などについては、「社会福祉制度政策論」(選択科目)の授業にゆだね、本講のなかでは取り上げません。したがって社会福祉主事資格取得の有無に関わらず、「社会福祉制度政策論」も併せ受講されるよう薦めます。</p>	
<p>【評価の方法】</p> <p>授業を通して、適宜、感想文及びレポートを求めます。また、定期試験は、レポートとします。</p> <p>出席は重視します。遅刻は厳しくチェックします。</p> <p>その総合点で評価したいと思います。</p>	

【授業科目名】 リハビリテーション論

【担当者】 菊池 恵美子

【開講期】 後期

- 【授業目標】
1. リハビリテーションの理念と基本原則を理解する。
 2. 障害の分類とその意味、必要な援助法を理解する。
 3. リハビリテーションに関わる専門職種の役割と機能を理解する。
 4. 対象者の疾患特性に応じた介護の知識と技法を学ぶ。
 5. 介護に必要な福祉用具の種類と適応を学ぶ。

【テキスト・参考書】

テキスト・リハビリテーション論 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規
参考書・松村 秩編, 生活リハビリテーションマニュアル, 中央法規, 1992 その他

授 業 計 画

授業目標に対応したおおよその授業計画を以下に示す（講義は2コマ連続）

1. 導入（リハビリテーションの意味・歴史・障害とは？）
2. リハビリテーションの体系と方法（関連機関・関連職種の機能と役割）
3. リハビリテーションの分野で使われている評価法
4. 日常生活活動と介助法（実技）
5. 障害の診かた（片まひ・パーキンソン他）
6. 高齢者の心身機能の特性と体力評価（実技）
7. 介護に必要な福祉用具の種類と使用方法
8. まとめとテスト

（毎回生活リハビリテーションと介護に関するVTRを使用する）

【評価方法】

評価：筆記試験 80%，レポート20%

出席：学則に従う

【授業科目名】 老人・障害者の心理	【担当者】 上野 米子		
【開講期】 後期			
【授業目標】 <ol style="list-style-type: none"> 1 老化や障害が与える心理的影響について学ぶ。 2 老人の心理的特性について理解する。 3 各種障害者の心理的特性について理解する。 4 クライエント（老人や障害者）への様々な援助をケースを通して学ぶ 			
【テキスト・参考書】 テキスト・・・使用しない 参考書・・・「老人・障害者の心理」介護福祉士養成講座（中央法規）その他			
授 業 計 画			
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1 老人心理の基礎 <ol style="list-style-type: none"> (1) 老化とは (2) 老化説 2 老人の心理的特性 <ol style="list-style-type: none"> (1) 老年期の知能 (2) 老人の記憶 (3) 老人の人格 (4) 老年期の適応 3 老年期の異常心理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 精神における異常とは何か (2) 異常の背景となる要因 (3) どのような異常症状が現れるか (4) 主な精神異常とその対応 4 障害とその心理的影響 <ol style="list-style-type: none"> (1) 障害と障害者 (2) 障害の及ぼす心理的影響 (3) 障害の受容 (4) 適応と適応機制 5 障害の時期・程度・種類別心理特性 <ol style="list-style-type: none"> (1) 障害発生の時期別・程度別心理的特性 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> (2) 障害の種類別心理的特性 6 老人・障害者への対応 <ol style="list-style-type: none"> (1) 基本的態度 (2) リハビリテーション (3) レクリエーション (4) その他 </td> </tr> </table>		<ol style="list-style-type: none"> 1 老人心理の基礎 <ol style="list-style-type: none"> (1) 老化とは (2) 老化説 2 老人の心理的特性 <ol style="list-style-type: none"> (1) 老年期の知能 (2) 老人の記憶 (3) 老人の人格 (4) 老年期の適応 3 老年期の異常心理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 精神における異常とは何か (2) 異常の背景となる要因 (3) どのような異常症状が現れるか (4) 主な精神異常とその対応 4 障害とその心理的影響 <ol style="list-style-type: none"> (1) 障害と障害者 (2) 障害の及ぼす心理的影響 (3) 障害の受容 (4) 適応と適応機制 5 障害の時期・程度・種類別心理特性 <ol style="list-style-type: none"> (1) 障害発生の時期別・程度別心理的特性 	<ol style="list-style-type: none"> (2) 障害の種類別心理的特性 6 老人・障害者への対応 <ol style="list-style-type: none"> (1) 基本的態度 (2) リハビリテーション (3) レクリエーション (4) その他
<ol style="list-style-type: none"> 1 老人心理の基礎 <ol style="list-style-type: none"> (1) 老化とは (2) 老化説 2 老人の心理的特性 <ol style="list-style-type: none"> (1) 老年期の知能 (2) 老人の記憶 (3) 老人の人格 (4) 老年期の適応 3 老年期の異常心理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 精神における異常とは何か (2) 異常の背景となる要因 (3) どのような異常症状が現れるか (4) 主な精神異常とその対応 4 障害とその心理的影響 <ol style="list-style-type: none"> (1) 障害と障害者 (2) 障害の及ぼす心理的影響 (3) 障害の受容 (4) 適応と適応機制 5 障害の時期・程度・種類別心理特性 <ol style="list-style-type: none"> (1) 障害発生の時期別・程度別心理的特性 	<ol style="list-style-type: none"> (2) 障害の種類別心理的特性 6 老人・障害者への対応 <ol style="list-style-type: none"> (1) 基本的態度 (2) リハビリテーション (3) レクリエーション (4) その他 		
【評価方法】 筆記試験 グループ討議等への参加姿勢			

【授業科目名】 家政学概論・家政学実習（経営管理・住生活）

【担当者】 佐藤美千子

【開講期】 前期

【授業目標】

家庭生活（生命および人間活動力再生の学び）の経営管理および住生活領域に
関する基礎的事項を学び、家事・介護援助のあり方と社会的役割を考へる。

【テキスト・参考書】

テキスト：宮崎礼子編『家政学概論』誠信書房

参考書：日本住宅会議『住宅憲章』岩波ブックレット No. 123

授 業 計 画

日本の高齢化は、生活のし方や価値観の大きな変化と重なって起きている
ため、家事・介護援助に携わる者は、家族の多様なあり方への理
解と、生活の様式や家族観が世代によって異なることへの洞察
力をもち、きわめて重要となる。

そこで、家庭生活と住環境について、社会的視点と生活史的視点
をもつて把握できるように配慮し、家事・介護援助者としての実践力を
培う一助としたい。

授業で取り上げる項目は、おおよそ次のとおりである。

1. 家族・家庭生活の現状
2. 生活周期・家族周期の変化と生活設計の課題
3. 生活時間、家事・介護労働、家事・介護援助
4. 経済生活、高齢者・障害者、消費者問題
5. 住宅の要件
6. 住宅改善の視覚と効果
7. 高齢者・障害者と住政策

なお、実習では、生活時間調査や住宅の安全チェックなどを行う。

【評価方法】

・学期末レポート 及び 平常点

【授業科目名】 家政学概論（衣生活）	【担当者】 山本良子
【開講期】 前期	
【授業目標】 生活基盤をなす、家政学の概要を衣生活の分野について、必要な基礎的知識を概説し、介護者として老人や障害者の衣料品について実践の場に役立てられるように問題点を考える。	
【テキスト・参考書】 テキスト：中島満喜子・駒津君代・土橋とき子共著 寮母・ヘルパーの家政学①被服（全国社会福祉協議会）	
授 業 計 画	
<p>被服生活について、具体的に下記の項目について概説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 被服の役割と機能、 <ol style="list-style-type: none"> ①被服の役割 ②被服の機能 2) 被服の素材と品質表示、 <ol style="list-style-type: none"> ①被服材料の種類 ②被服繊維 ③被服材料の加工 3) 被服と保健衛生、 <ol style="list-style-type: none"> ①被服と体温調節 ②衣服気候 ③衣服の重量と拘束性 ④環境と被服 ⑤汚れと被服 ⑥衣料障害 4) 被服の管理 5) 被服の選択 <ol style="list-style-type: none"> ①被服の消費性能 ②被服品と品質表示事項 ③寝具 6) 老人、障害者と被服、 	
【評価方法】 レポート	

【授業科目名】 家政学実習（衣生活）	【担当者】 山本良子
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>実習では講義内容の理解を深めるための技能を実習し、家庭生活に必要な実践的経営、管理能力を学ぶことを目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>参考書：大谷陽子編著 家政学実習 建帛社</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1) 被服素材の特徴および繊維鑑別の実験、 2) 布地の性能に関する実験 吸湿・吸水性、保温性、収縮性、剛軟性、防しわ性 3) 被服管理実習 市販洗剤の表示の検討、漂白剤の種類および主成分の調査、柔軟剤の使用効果、しみ抜きの方法、 4) 老人、障害者のための被服のデザイン・構成および着脱の工夫、使いやすい被服の検討、 	
<p>【評価方法】</p> <p>実習レポート</p>	

【授業科目名】 家政学概論・家政学実習（食生活）	【担当者】 北 郁子
【開講期】 後 期	
<p>【授業目標】</p> <p>高齢者・障害者にとって、心満たされる食事は最大の楽しみであり直接生きる意欲につながる。介護者としてそのような食生活を作り出せる基礎的知識と介護のあり方を深めることができることを目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>「栄養・調理」介護福祉養成講座9巻 中央法規出版 その他</p>	
授 業 計 画	
<p>1. 栄養とエイジング</p> <p>2. 生命現象をどう考えるか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間が生き生きと生きて行くためには、人体を構成する細胞が必要とする栄養素を過不足なく取り込み、それをを用いて栄養の営みをする過程を理解させる。 <p>3. 高齢者の食生活の特性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体面・精神面・社会経済面での特性 ・食生活について高齢者のための食生活指針から考えてみる。 <p>4. 高齢者の栄養所要量と食品構成。特にその個人化</p> <p>5. 食べ物のおいしさの条件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者においしく食べていただくには <p>6. 食べ物の選択と調理</p> <p>歯が悪くなった人に。飲み込みが悪くなった人に。成人病の人に。</p> <p>7. 供食の仕方と食事介助について</p> <p>人間らしい、人間の尊厳が失われない食事を中心として</p> <p>以上を理論と実習、ビデオ等を通じて理解を深める。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>筆記試験、感想文及びレポート</p>	

【授業科目名】 介護概論	【担当者】 関谷 栄子
【開講期】 前後期	
<p>【授業目標】 高齢者や障害者の生活の維持向上を図り、快適な生活を過ごすことができるように直接的なケアについての理論と方法を学ぶ</p> <p>1 介護を要する人々の生活を理解する</p> <p>2 介護の目的、目標、原則、機能、範囲及び専門性、提供の場等について理解する</p> <p>3 看護・医療・保健・家政など隣接領域、及び家族や地域社会との協力の方法を学ぶ</p>	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<p>1 介護の目的、目標、原則、機能、範囲及び専門性、提供の場</p> <p>2 高齢者、障害者の生活を理解する、自立生活を営むためのニーズと介護の役割</p> <p>3 健康維持のメカニズム、障害や疾病時のケア、終末ケアについて理解する</p> <p>4 介護の原則 安全、安楽、日常生活行動の改善、残存機能の維持、Quality of Life</p> <p>5 介護の技法</p> <p> (1) 健康や生活の観察技術</p> <p> (2) 生活行動の援助技術 呼吸確保、食、排泄、清潔、衣類や寝具の整備、住環境の整備、運動や移動 睡眠、有害環境からの保護、コミュニケーション、職業、教育、宗教 レクリエーション、社会参加</p> <p> (3) 特殊場面における介護技術 医療、看護対応時の介護 与薬、感染予防、救急、事故対応、終末期ケア</p> <p>6 介護提供の場 長期利用施設の介護、短期利用施設の介護、在宅ケア</p> <p>7 介護関係の維持のための技法 関係職種、隣接領域との協力関係、連携の在り方 記録、事例検討</p> <p>8 家族や利用者自身に対する介護指導</p> <p>9 介護職種の安全、健康管理</p> <p>講義の他に適宜施設見学、学外見学研修を実施する</p>	
【評価方法】 テスト及びレポート	

【授業科目名】 介護技術	【担当者】 関谷 栄子
【開講期】 前後期	
<p>【授業目標】 1 介護の基本的技術（法）を習得しその原理を理解する</p> <p>2 介護に適した各種福祉機器ならびに住設備機器について適正な使用のありかたを学ぶ</p> <p>3 技術を用いる過程の展開のあり方を学ぶ</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>検討中</p>	
授 業 計 画	
<p>介護概論の講義と平行して介護技術の実習や演習形式を多く取り入れる</p> <p>1 介護の目的と原則</p> <p>2 介護の過程 介護ニーズ、介護計画、実施、評価、介護の記録</p> <p>3 基本的な介護技術</p> <p>(1) 基本的なマナー</p> <p>(2) 健康生活の観察技法</p> <p>(3) コミュニケーション</p> <p>2 生活行動援助技術</p> <p>(1) 住環境の整備 (2) 移動 (3) 体位交換 (4) 衣服の着脱、</p> <p>(5) 食事 (6) 排泄 (7) 清潔 (8) 整容</p> <p>3 特殊な場合の介護</p> <p>(1) 褥瘡予防 (2) 救急・事故時の対応 (3) 与薬 (4) 異常の見分け方、</p> <p>(5) 痴呆性老人の介護</p> <p>4 記録、事例検討のすすめかた</p> <p>5 関係職種との協力の仕方 医師のかかりかた、看護婦との協力のしかた</p> <p>6 地域社会、家族との協力、連携のしかた</p>	
<p>【評価方法】 テスト及び実技試験</p>	

【授業科目名】 障害形態別介護技術（老人）	【担当者】 木下安子
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】 老人介護の基本について理解し、老人の心に触れて介護する意義や方法を体得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者に関する書籍、資料を自主的に読み、その特徴・課題・介護方法を研究する 2. 集団学習（ワークショップ）によって深め、互いの知見を交流する 	
<p>【テキスト・参考書】 特に指定しないが、課題に応じて文献、マスコミの報道資料等</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 老人に関する文献（単行本・雑誌）マスコミの報道（新聞・雑誌記事等）を各自の興味にしたがって探索する。 その探索結果の紹介と見解を発表し、討論する ——問題発見—— 2. 明らかになった老人介護に関する課題を整理し、分野別にグループに分かれ学習し、その結果を発表、討論する ——ワークショップ—— 3. 各自がこの過程で学んだ内容を整理し、レポートにまとめる。 レポートには次の点を含むこと <ul style="list-style-type: none"> ・老人をめぐる諸環境についての分析と、老人介護の課題とこれからの方向について論じる <p style="text-align: center;">— レポート作成 —</p> 	
<p>【評価方法】 評価についてはこの全過程を通じて行う</p>	

【授業科目名】 障害形態別介護技術（聴覚障害）	【担当者】 貞廣 邦彦
【開講期】 前期	
【授業目標】 聴覚障害者の福祉の基本は、障害への理解とコミュニケーションの保障を確保することにあります。福祉についての理解を深め、手話の表現力を養いたい。	
【テキスト・参考書】 参考書：「わたしたちの手話（1）」全日本ろうあ連盟発行 // ：「手にことばを（初級用）」東京都聴覚障害者連盟発行	
授 業 計 画	
<p>聴覚障害者への接し方、聴覚障害者とのコミュニケーションの方法などについての問題点を検討し、手話の社会的位置づけを理解するとともに、手話の表現技術を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) ろう教育とコミュニケーション (2) 聴覚障害者の社会生活 (3) 手話の成り立ち (4) 指文字 (5) 手話の基礎的表現 (6) 手話の特徴 (7) 聴覚障害者との演習 (8) 手話日常会話 (9) 手話と文化 (10) コミュニケーションと情報 	
【評価方法】 授業への出席状況と筆記試験によって評価する。	

【授業科目名】 障害形態別介護技術（肢体不自由・内部障害）	【担当者】 関谷 栄子
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】 1 障害者や老人の特性に応じた介護に関する知識を習得する</p> <p>2 障害者や老人の置かれた条件に対応した介護の知識・技術を習得する</p> <p>3 介護機器や各種の福祉機器・用具について理解し、その使用方法について学ぶ</p>	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<p>内容 1. 老人や障害者の行動様式を理解し介護のあり方を学ぶ</p> <p>2. 家族形態別にみた障害者や老人の生活障害の所在と介護の技法について学ぶ</p> <p>3. 脳神経疾患、内部障害者、骨関節疾患、難病などの疾病による生活障害の所在を理解し介護の特徴を学ぶ</p> <p>4. 日常生活行動上の介護の技法を学ぶ</p> <p>5. 残存機能の活用の方法と介護の技法を学ぶ</p> <p>6. 実習によって介護の技法を学ぶ</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>評価方法：テスト及びレポート</p>	

【授業科目名】 障害形態別介護技術（視覚障害）	【担当者】 直居鉄
【開講期】 後期	
【授業目標】	
【テキスト・参考書】 視覚障害者の介護技術 点字器付き 点字の本	
授 業 計 画	
<p>視覚障害といっても、完全に見えない者から日常生活にほとんど支障がない程度の者までその範囲は広く、また、障害の原因、発生時期、残存感覚の活用の状況など、個人差が著しい。介護が必要な者は概ね障害程度1～2級の重度視覚障害者であり、特に近年増加している高齢失明者である。</p> <p>視覚障害による影響は、非常に多様で深刻であるが、共通するのは、運動機能に障害がないにもかかわらず歩行、移動が不可能あるいは困難であるということと、文字や映像による情報から阻害されることである。</p> <p>視覚障害に関する医学的知識と視覚障害者の実情について学習し、介護技術として、歩行・移動の介護、視覚障害者とのコミュニケーションに不可欠な点字の読み書き、文字の音訳（朗読）、代筆に関する知識技能を習得する。</p> <p>老人ホームにおいて多数の晴眼老人との共同生活をしている者、家庭において家族と共に、あるいは単独で生活している者など、それぞれに対応できるような基礎的知識を習得する。</p>	
【評価方法】	

【授業科目名】 実習指導	【担当者】 真保雅子・西方規恵
【開講期】 前期・後期	
【授業目標】 1. 介護実習を円滑に進めるために必要な知識・技術を修得する。 1) 介護の対象者、施設設備、施設職員についての全般的な理解 2) 記録の在り方(実習記録、個別援助計画に向けて) 2. 個別援助計画を立案・実践し、実践記録を発表する。	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<p><前期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ①「実習指導」の授業形態について理解する ②「介護実習」の意義とすすめ方を知る 2. 実習施設についての学習 <ol style="list-style-type: none"> ①特別養護老人ホーム ②救護施設・身体障害者療護施設 3. I期実習オリエンテーション <ol style="list-style-type: none"> ①I期実習で学ぶことを理解する ②I期実習目標を立てる 4. I期実習反省会 <ol style="list-style-type: none"> ①1期実習で学んだことを整理する ②II期実習に向けての課題づくり 5. II期実習オリエンテーション <ol style="list-style-type: none"> ①II期実習で学ぶことを理解する ②実習記録の内容を深める ③II期実習目標を立てる ④II期実習目標を確認する ⑤夏期休業中の課題を確認する 	<p><後期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. II期実習反省会 実習から学んだ介護職員・施設のあり方 2. III期実習オリエンテーション ① III期実習で学ぶことを理解する チームの一員としての介護とは 3. 個別援助計画とは <ol style="list-style-type: none"> ①事例から学ぶ ②計画立案から実践までの流れを理解する ③モデルケースを使い計画を立ててみる 4. III期実習オリエンテーション ② III期実習の目標を確認する 5. 実践した個別援助計画を振り返る <ol style="list-style-type: none"> ①記録の重要性について理解する ②自分の記録をもとに学ぶ ③個別援助計画の実践記録を完成させる ④ケーススタディ発表会抄録を作成する 6. ケーススタディ発表会
【評価方法】 平常点 実習記録(ケースレポートを含む)	

【授業科目名】 介護実習	【担当者】 関谷栄子・真保雅子・西方規恵
【開講期】 前期・後期	
<p>【授業目標】 1. 介護実習を通して、介護の対象者・施設設備・施設職員についての理解を深める。</p> <p>2. 学校で学んだ理論を応用し介護技術を高める。</p> <p>3. 介護福祉士としての介護観を養う。</p>	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<p>1. 介護実習は、48日間をⅢ期に分けて行われる。各期の実習目標は以下の通り。</p> <p>I 期 (予定) 5月20日(月) - 6月1日(土) まで</p> <p>目 標 ・「利用者の住まい」としての施設を理解する。</p> <p> ・利用者の処遇の実際を知る。</p> <p> ・コミュニケーションが比較的とりやすい利用者に関わり初歩的な日常生活援助を修得する。</p> <p>II 期 (予定) 9月2日(月) - 9月14日(土) まで</p> <p>目 標 ・利用者の障害のレベルに応じて求められる介護技術を適切に用いる。</p> <p> ・介護職以外の職員との協力体制を理解し、実践する。</p> <p> ・お年寄りの生活を支える様々なサービスを体験学習する。</p> <p>III 期 (予定) 11月11日(月) - 12月7日(土)</p> <p>目 標 ・「利用者の暮らし」を支えるための知識・技術を高める。</p> <p> ・「個別援助計画」を立案し実践する。</p> <p> ・自分の介護観の形成を目指す。</p> <p>特別養護老人ホーム1-2カ所、救護施設または身体障害者療護施設1カ所で実習する。学校から提示された施設以外では実習できない。(厚生省指定による)</p> <p>2. 介護実習の前後に「実習指導」が週1-2時間あり、実習の進め方の詳細は「実習指導」で解説、学習する。</p>	
<p>【評価方法】 平常点 実習施設からの評価 実習記録(ケースレポートを含む)</p>	

【授業科目名】 介護福祉特講（レクリエーション）	【担当者】三木 和子
【開講期】 前期（後半）	
<p>【授業目標】 介護サービスの現場において、レクリエーション援助の重要性は、ますます高まってきた。利用者の生活の中での楽しみ、喜び、援助のために、どのような視点を持てばよいのか。また基本的な援助技術を少しでも身につける努力を期待する。</p>	
<p>【テキスト・参考書】 テキスト：「レクリエーション指導法」中央法規出版 参考書：「福祉レクリエーション・実践マニュアル」</p>	
授 業 計 画	
<p>6回という限られた授業回数なので、本来「レクリエーション・ワーク」の授業に不可欠な演習の時間が、1回しか予定できないが、講義を主とした時間にも、なるべく演習的な内容を盛り込んで、幅広い授業内容にしていきたい。全出席を心掛けて欲しい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 余暇社会とレクリエーション 2. 福祉分野におけるレクリエーション 3. レクリエーション援助の方法（援助技術その1） 4. レクリエーション計画 5. 演習（レクリエーション援助技術その2） 6. レクリエーション・ワーカーに求められること 	
<p>【評価方法】 筆記試験の成績と出席点を考慮する。</p>	

【授業科目名】 介護福祉特講（老年医学）

【担当者】 大倉透

【開講期】 前期（前半）

【授業目標】

老年医学の、概要を述べる。介護に当たっての、注意事項や、どのようにすれば、
高齢者にとって、快適な介護が出来るか、危険を防止できるか、実際に即した介
護法を、理解できるようにする。

【テキスト・参考書】

テキスト：大倉 透：ボケの予防・治療・介護（創芸社）

授 業 計 画

テキストを中心に、以下の項目にしたがって、講義する。老人介護に必要な病
気の知識、病気の成立について。簡単な診断法、治療法、さらに、予防法および
リハビリテーションまでを、述べる。

1 総論

- A 老化（加齢）現象とは
- B 病気の分類
- C 老人病とは

3 死の判定

4 救急処置

5 老人の在宅ケア・地域ケア

6 老人と栄養

2 各論

- A 脳血管障害
- B 心疾患
- C ガン
- D 痴呆
- E 骨折と骨粗鬆症
- F 関節リウマチと関節疾患
- G 呼吸器疾患
- H 消化器疾患
- I 泌尿器疾患
- J その他

【評価方法】

筆記試験

【授業科目名】 社会福祉制度政策論	【担当者】 佐野 英司
【開講期】 専攻科共通 前期および後期前半	
<p>【授業目標】</p> <p>本講は、社会福祉主事資格を取得する学生が履修する選択科目として位置付けられています。しかし、主事資格取得の有無に関わらず、できるだけ多くの学生に履修をお薦めします。</p> <p>前期は、児童福祉、障害者福祉、老人福祉、公的扶助などを巡る諸制度、諸政策の歴史的変遷と現在、そしてこれからどう変化していかうとしているかを、住民（児童、障害者、老人その他一般住民）の生活との関連で概括します。そして、制度政策を考える視点を生存権保障に置き、憲法、社会福祉諸法、各種憲章、権利条約等をおして自らを築き上げられるようにします。</p> <p>後期は、社会福祉制度が、具体的にどうなっているかを理解できるようにし、年間を通して、保育・介護現場に立つ者としての最低限の認識を身につけることを目標にします。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>授業時に提示します。</p>	
<p>【授業の進め方】</p> <p>前期は、育児、保育、介護などを巡る実態をもとに、授業目標に掲げた内容にそって、プリントや進行途中から取り入れる教科書を中心に授業を進めます。</p> <p>また、夏期休暇中の公立保育所職員採用試験やその後の保育所、老人福祉施設などの受験対策を兼ねながら、小論文（作文）作成の方法や内容についても検証します。</p> <p>また、後期は、現行社会福祉制度の中身や利用方法などをグループ学習を取り入れながら認識できるようにします。</p> <p>内容的には、高度な難しい授業ですが、ひとつひとつ丁寧に進めていくつもりです。また、受講学生も予習を欠かせません。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>授業内容をヒントとしたレポートの提出を小論文（作文）作成訓練を含め数回求めます。定期試験は、レポートとします。出席は重視します。</p> <p>その総合点で評価したいと思います。</p>	

【授業科目名】 障害福祉論	【担当者】 尾島豊
【開講期】 後期	
<p>【授業目標】 障害者問題の特質とその背景、障害の概念、障害者福祉に関わる法律や制度の概要など、専門援助者として関わる上での基本的な考え方と知識を学び、また現代の障害者問題に対する問題意識を深め、またノーマリゼーション論の理解を深めることを目的とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】 テキスト：手塚直樹、加藤博臣編『障害者福祉論』ミネルヴァ書房 参考書： 大野智也著『障害者は、いま』岩波新書 砂原茂一著『リハビリリテーション』岩波新書</p>	
授 業 計 画	
<p>前半は、障害者福祉に関する制度の概要の紹介が中心となる。身体障害者、知的障害者に対する福祉制度、関連する制度の概要を理解することが目的となる。後半は、現状の障害者問題に対する知識と考え方を深めることを目的とする。福祉の領域におけるノーマリゼーション論を、広く社会の動きとの関連の中で捉え、現代において広く問題となっている慢性疾病と障害者問題、高齢化と障害者問題、教育における障害児の統合教育などがテーマとなる。</p> <p>序 オリエンテーション</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 障害の概念について 2 障害者福祉の法律と制度 3 障害者問題を考える視点 	
<p>【評価方法】 学期末 レポート提出 講義への出席、参加状況</p>	

【授業科目名】 家族福祉論	【担当者】 浅井春夫
【開講期】 後期	
【授業目標】 ①家族福祉の基本的枠組み、諸理論を学ぶ ②各分野の家族福祉の具体的課題を深める ③わが国における家族福祉の動向について学ぶ	
【テキスト・参考書】 テキスト：使用しない 参考書：授業のなかで紹介する	
授 業 計 画	
(1)家族福祉論で考えたいこと (2)「女らしさ」「男らしさ」からの解放 (3)いま世界と日本の家族に何が起きているのか (4)家族福祉の視点とは何か－家族福祉の概念 (5)高齢者問題からみた家族福祉－福祉サービスの内容 (6)障害児問題からみた家族福祉－スティグマ観の検討 (7)精神障害者問題からみた家族福祉 (8)ディスカッション 福祉制度改革はどうすすめられるべきか (9)ディスカッション 介護の担い手は女性が適しているか否か (10)地域問題からみた家族福祉 (11)援助方法からみた家族問題 (12)家族政策からみた家族問題 (13)現代の社会福祉政策動向と家族福祉の展望	
【評価方法】 ①レポート提出 ②授業への出席状況	

【授業科目名】 社会福祉調査法	【担当者】 山口尚子
【開講期】 専攻科共通 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>社会福祉調査が社会福祉援助技術の1つとして、どのような意義をもち活用されているかについて具体的に理解することを授業目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト 根本博司編『社会福祉援助技術』建帛社 参考書 授業の中で適宜紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>概ね、以下の内容で行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉調査の意義 2. 社会福祉調査の過程 <ol style="list-style-type: none"> (1) 調査問題と目的の明確化 (2) 調査範囲・対象の決定 (3) 調査法の選定 (4) 調査票の作成 (5) 予備調査の実施 (6) 調査の実施 (7) 調査結果の集計と分析 (8) 報告書の作成 	
<p>【評価方法】</p> <p>授業への出席状況と主体的学習態度により評価する。</p>	

【授業科目名】 社会福祉援助方法論	【担当者】 尾島 豊
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>社会福祉に固有な方法としてのソーシャルワーク実践の専門性（価値・知識・技術）のあり方を学ぶ。職業としての社会福祉援助の意味、援助関係の形成と援助過程を展開する上で必要な基礎的な概念を理解する。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：武井・春見・深澤共著『ケースワーク・グループワーク』光生館 参考書：モフェット著『ケースワーク入門』川島書店 バイステック著『ケースワークの原則』誠信書房</p>	
授 業 計 画	
<p>この講義では、保育・介護福祉の職業に就く者として必要な社会福祉の方法論の基礎を改めて学ぶ。保育にも介護福祉にも共通する対人援助活動における基本的な考え方に関するテーマが中心となる。どのように現場で学校や書物で得た知識を活用し、社会的価値を実現させていくか、あるいは専門的な援助を通じて自らも成長できるという意味で、対人援助という職業を見直すきっかけになればと思う。</p> <p>序 オリエンテーション</p> <p>1 社会福祉における方法・技術　－対人援助活動の基礎－</p> <p>2 社会福祉の目標と価値</p> <p>3 社会福祉の専門性</p> <p>4 ソーシャルケースワークの基礎</p> <p>5 事例研究－ニーズの把握・情報収集の方法と援助過程の展開－</p> <p>6 ソーシャルワーク論の歴史と理論</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>講義の内容の理解を中心にした筆記試験</p>	

【授業科目名】 社会福祉特別演習	【担当者】 山口尚子
【開講期】 専攻科共通 前期	
【授業目標】 地域福祉を基軸とした社会福祉の再編成がなされている現状と課題を理解し、そこでのソーシャルワークの方法について、具体的に学ぶことを授業目標とする。	
【テキスト・参考書】 授業時に適宜、紹介する。	
授 業 計 画	
<p>概ね、以下の内容で授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域福祉機関におけるソーシャルワークの主体とプロセス <ol style="list-style-type: none"> (1)主体 (2)プロセス 2. コミュニティワークを中心とした援助技術の再構築 3. 地域福祉機関におけるソーシャルワークの展開 <ol style="list-style-type: none"> (1)地域福祉相談活動 (2)小地域ネットワークづくり (3)当事者家族の組織化 (4)ボランティア活動への支援 (5)在宅福祉サービスの開発と組織化 (6)地域福祉活動計画の策定と実施 4. 事例研究 	
【評価方法】 出席状況と主体的学習態度により評価する。	

【授業科目】 社会福祉実習	【担当者】 佐野 英司
【開講期】 専攻科共通 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>この実習は「社会福祉主事任用資格」取得希望者を対象に福祉事務所や児童相談所などの社会福祉専門行政機関、老人ホームや精神薄弱者援護施設などの社会福祉施設（原則として児童福祉施設を除く）で行うものとしします。</p> <p>実習をとおして、施設利用者の生活実態と機関・施設の役割を理解し、考える力をつくと共に、援助技術について学びます。</p>	
<p>【本実習及び事前・事後指導】</p> <p>配属実習は7月下旬から8月上旬にかけての12日間を標準として実施します。実習の事前・事後指導は、別途相談して決めます。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>実習機関からの評価を基礎に、実習への取り組み方、実習のまとめ等を総合的に判断し行います。</p>	

【授業科目名】 修了研究演習	【担当者】 専任教員
【開講期】 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>福祉にかかわって問題とされることがらを各自選び、その課題解明を試みる。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>各担当教員の指示による。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 4月入学後、オリエンテーションを受けた後、学生各自がテーマを決める。 2. テーマによって担当教員を決定（教員1人当り5～10名の学生が配属）。 3. 担当教員の指導を受けながら研究作業をすすめる。 4. 11月に予定の修研中間発表会で報告する。 5. 1月修研提出する。 6. 2月修研発表会で研究成果を報告する。 	
<p>【評価方法】</p> <p>各自提出の修研（論文）により評価する。</p>	

学籍番号・

氏 名・

〒187 東京都小平市小川町1-830
教務課0423(46)5619